



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://wwfk.jimdo.com/>

労働者派遣法『改正』の問題点

会員 伍 淑子

▲労働者派遣法「改正」法案が 短時間の審議で強行可決・成立

安全保障関連法案が幅広い国民の反対の声が渦巻く中、その陰に隠れて9月11日衆院本会議で労働者派遣法「改正」法案が短時間の審議で強行可決・成立した。

1985年に成立した労働者派遣法（1986年施行）は、当初の一時的・臨時的、常用代替防止の制限をかなぐり捨てて、次々と規制緩和が行われてきた。究極の規制緩和は、2004年からの製造業への拡大であった。いまや派遣労働は、使う側にとって解雇規制にも触れずに労働者を使い捨てにできる宝の山となっている。2012年の「改正」で盛り込まれた「みなし規定」が、今年の10月1日から実施されることになっていた。それを目前にした今回の「改正」である。

▲4つの問題点

最大の問題点は、4つある。

- ①期間制限を撤廃、専門業務を除き原則1年、最大3年。新たに個人単位の3年期間制限を設ける。
- ②派遣先への直接雇用申し入れを義務づけを削除、正社員化の道を閉ざす。
- ③「みなし規定」の骨抜き、5年前（2012年）の「改正」で導入された「労働契約申し込みみなし規定」が今年10月1日から施行になるが、今回の「改正」により期間制限違反が生じなくなる。
- ④派遣労働者と派遣先の労働者との賃

金の「均等待遇」は一切なし。派遣元は均等待遇を考慮した説明をすればよく、派遣先は賃金情報を派遣元に提供することを配慮すればよい。これではまったく均等待遇は機能不全となる。

▲「永続的派遣労働」を可能に

結果的に一時的・臨時的である派遣を労働者や業種を3年で変えさえすれば、これまで期間制限のなかった26業務も含めて、派遣労働者から正社員への道を閉ざし、企業にとってはいつまでも派遣を採用できるという「永続的派遣労働」を可能にした。唯一の均等待遇も効果が期待できない、まったくの改悪となった。政省令の制定のため、半月ほどで労働政策審議会が作業をはじめた。先に結論ありきで労働者保護はまったくない問題の多い法律となった。

職場に安易に派遣労働者を入れない労働組合のたたかいが歯止めをかける唯一の力になる。

2015年はたらく女性の神奈川県集会

とき 10月3日(土) 13:00~16:30 バザーは12:30~

ところ 神商連会館4階(JR東神奈川駅徒歩5分)

資料代 300円

★記念講演「女性の貧困から取材の現場～」
宮崎亮希さん(NHKディレクター)

★分科分散会

- ①知らないと損をする！働くための基礎知識
- ②ワイワイトーク「安心して働きつづけるために」
みんなでしゃべろう！！
- ③介護労働者の実態
- ④日本中がブラック企業！解雇事由・残業代ゼロ・一生派遣…
そんなの許さない！！



第7回WWFK総会開催



●第7回総会から●

7月23日に第7回総会を開催し、会員14名が参加しました。

小島代表から「2014年度活動報告と2015年度活動方針(案)」が提案され、君嶋会計から「2014年度会計報告、2015年度予算(案)」が提案され、佐久間会計監査から「2014年度会計監査報告」がされました。議案はすべて承認されました。総会終了後、君嶋会員から「神奈川県議会報告」を聞きました。

総会で参加者からは、・会員対象の学習活動を重視し、JALマタハラ裁判などの話を聞く。・県母親大会に働く女性の分科会がない。もっと積極的に意見を言う必要あり。・婦民で日吉の地下壕見学会をする予定。・県政の女性政策づくり等への協力も、などの意見が出されました。

【2015年度の事務局体制】

代表 小島八重子

事務局 池田資子、佐久間由美子(会計)、

伍淑子、本間重子、中嶋ひとみ、村田泰子

編集委員 池田、本間、小島

会計監査 白井光子

*よろしくおねがいします。

●神奈川県議会報告から●

君嶋会員から議員になって3か月経った県議会の様子を報告してもらいました。

・請願や陳情は、議事録にのらない休会後に昼休み勉強会で審議される。中身でなく提出団体、紹介会派により「採択」「不採択」が決まる。

・「水ビジネス」でベトナムへの海外視察について、「県民の福祉に当たらない」との共産党の反対表明に、「共産党は連れて行かない」と多数派に異議をとる存在を排除。

・議会運営委員会、常任委員会の議論の自由化、傍聴の自由化(出入り自由や資料配布など)県議会の民主化が必要。

今後も、県政が住民本位であること、そのためには議会運営の民主化、意見の違いを認めあうことなどが基本、自治体の本来の役割、議会のあり方などを視野に入れて対応していきたい。

君嶋さんを支えるためにも私たち県民も議会議をきちんと監視していく必要があります。

君嶋ちか子がゆく①

・・・神奈川県議会報告



第3回定例会が9月8日から始まりました。

日本共産党は9月11日に藤井議員の代表質問、16日には大山議員の一般質問を行いました。

本会議でしみじみ思うことは、「他会派の質問が、知事の基本姿勢あるいは政策の域を出ない」ということです。知事の政策を取り上げ「〇〇をどのように実施されるおつもりでしょうか？」と問い、それにとうとう対し知事が得意げに、自分の政策を滔々と述べるというパターンを何度聞いたことでしょうか。

議会が知事に対抗する機能を持たず、いわば広報マンになっている状態です。その状態に対し、藤井議員は安保法制についての知事の態度を問い、県立高校老朽化のひどい実態の改善を迫り、相模補給廠の爆発事故を取り上げ地位協定の見直しを求めるといった具合です。

また大山議員は、特別支援学校の恒常化してい

る規模過大化を取り上げ、その新設を求め、子ども医療費無料化の拡大を求めるといった質問を行っています。他会派との違いは明らかです。

そんな中で、知事の姿勢は浮彫りになります。藤井議員が「県立高校の老朽化対策を。当面の財源として法人超過課税を当てろ」と求めた時に知事は、「超過課税はオリンピックに使う。老朽化対策には使わない」と明言しました。

大山議員が子ども医療費の拡充を求めた時にも、「それは国がやるべきこと」と言い放ちました。

「世界への発信」というのが知事の好きなフレーズです。「オリンピックで神奈川の観光産業を飛躍させる」とは言っても、神奈川の教育を充実させるためのお金は出し渋ります。また「未病対策を重視する、世界にME(ミ)ーBYO(ピョウウ)ブランドを打ち上げる」と言っても、多くの県民の暮らしにかかわる医療対策を拡充するとは言いません。

このような状況ですから、まだ要求の実現という段階には至っていませんが、「特別支援学校の実態が県議会の中で明らかにされたことは初めてだ」と思う。本当にうれしい」という傍聴の方の言葉は、私たちにとっても嬉しくかつ励みになります。

出征する父と交わした約束 …父は帰ってこなかった… 会員 矢野 操

私の手元には、戦地「中支」に派遣されていた父からの軍事郵便があります。就学前の娘に宛てたカタカナばかりの手紙で、「オショウガツニハカエレルト オモウヨ」と書かれています。

黒く塗りつぶされた箇所があり、子どもにも書いてはいけない言葉があったのでしょ、検閲者の存在を知ることができます。

父は敗戦の色濃くなっていた1944（昭和19）年に出征しました。

その日、父は満5歳の長女の私を手まねきして玄関の外に誘いました。

「お母さんと妹たちのことを頼むよ！」と言いました。おそらく私は「ウン」とうなずいたのだと思います。

5歳の娘にそう“遺言”を託さなければならなかった父の胸中など、わかろうはずもありません。

ん。妹は3歳、末の妹は生まれてまだ半年ほどでした。

父は帰ってきませんでした。

記憶に残る父の思い出はあまりありません。しかし、このことだけは、今も鮮烈に残っていて、タスキがけの父の写真を見るにつけ、オーバーラップします。

同級生だった隣組の子のお父さんが帰還したとき、「T子ちゃんのお父さんは帰ってきたのに、うちのお父さんはなんで帰ってこないの！」と母に泣きつき、一緒に涙をこぼしました。

「戦争未亡人」となった母が、幼児を抱え、どんなに辛く、悲しい想いを重ねて生き、私たちを育ててくれたのかを知る歳になった今、私は言いたいです。

こんな経験は私たち世代だけでたくさん、戦争は絶対イヤ！

再び戦争への道を可能にする安倍政治は許せない！ と。

戦争はダメ！ が幼い日培われた私の原点です。



大空襲で焼かれた横浜

会員 本間 重子

たしかあの日は五月晴れでした。1945年5月29日、8月15日から2か月半前、横浜市街地はアメリカのB29戦闘機による大空襲で、焼け野原となりました。

その時私は小学校2年生になったばかり。朝から空襲警報で父に「早く防空壕へ！」と叱咤され裏庭の壕へ退避した時、強い衝撃で壕の奥が崩れました。「近くに爆弾が落ちた、逃げる！」という父の声で、生後9か月の妹を含め一家9人どこをどう逃げたのか、裏山の林にたどり着き身を固くしていました。

どのくらい経ったか、B29も去り家に戻ると、表庭の一角にあった祖母の離れ家が焼け落ちていました。そこには知り合いの若夫婦とその母親が一時的に住んでいたのですが、防空壕が嫌いだったそのおばさまは直撃弾にあたって焼死してしまっただけです。

焼け跡から、真っ黒に焼けて骨格だけになったおばさまの遺体が掘り出され、我が家に安置しお

戦争法案採決に抗議する！！

戦争法案は9月19日未明の参院本会議で、自民、公明、元氣、次世代、改革の各党などの賛成多数で可決、成立しました。歴史に残る暴挙です。私たちは、絶対に許しません。さらに戦争法廃止、安倍政権打倒にむけ、とりくみをつよめていきましょう。これからが闘いです。

灯明をあげ、手を合わせたことは今でも目に焼きついています。

すぐ近くの小学校の校庭が急場の火葬場となり、順番に荼毘にふしたということで、おばさまも二日後にはお骨になったと思います。この頃は子ども達には「禁足命令」が出て、門から一步も出なかったように記憶しています。

横浜大空襲は、5月29日の昼間アメリカによって横浜市の中心地域をねらって行われた無差別爆撃でした。記録によるとB29爆撃機517機、D51戦闘機101機によるもので、無数の焼夷弾が投下され約8千人から1万人の死者が出たということです。その焼夷弾の流れ弾一発が私の家の庭に落ち、無辜の市民が殺されたのです。

戦争の場に行けば「殺さなければ殺される」、そうしてこなかった日本の戦後70年と憲法9条を守ってきた私達自身を誇りに思い、「戦争法案廃案に！」を叫ぶ毎日です。

日吉地下壕見学会

*定員があるので、必ず空きを確認してください。

日時 10月2日（金）13:00~15:30

集合時間 12:30

集合場所 東横線日吉駅改札前

費用 800円（資料代・保険）

募集人員 先着20人（多少余裕あり）

申し込み先 有園さんへ

Tel・Fax 045-363-0722

Eメール a-zono@jcom.home.ne.jp

★服装等 スニーカー、懐中電灯持参

主催：婦人民主クラブ神奈川県協議会



慰霊・復興、 そして世界平和のかけはしへ 会員 佐久間由美子

長岡大花火大会行ってきましたっ！

長岡大花火大会は8月1日の夜、長岡大空襲慰霊の花火「白菊」3発の打ち上げから始まり、市民カンパによる復興の花火「フェニックス」など、恒久平和を願う花火、約2万発が2日、3日に打ち上げられます。

今回長岡市出身の鈴木敏子会員のご厚意により、信濃川を見下ろすマンションの14階から見物するという幸運に恵まれました。

8月2日、混雑する長岡の駅を降りると、書家の金沢翔子さんによる「長岡大花火」の横断幕が出迎えてくれました。この書はのぼり旗などになって街中に飾られ、すでに町中お祭り一色、熱気にあふれていました。

花火の打ち上げ解説には、スポンサー名だけでなく、70年の歩みや平和への思いが込められ、長岡市民のこの花火大会にける熱い思いが伝わってくるものでした。もちろん花火も直径650メートルの日本最大級のものや、さまざまな色合い形状の花火を組み合わせると不死鳥が舞い上がるフェニックスなど、毎年進化しているという多彩な花火が次々と夜空に広がり、胸にも感動が広がりました。

また8月15日は姉妹都市のハワイ・ホノルル市の真珠湾でも「白菊」など2000発の花火が打ち上

げられました。これは真珠湾攻撃を指揮した山本五十六の出身地長岡市とホノルル市が8年前から姉妹都市となり、さまざまな困難を乗り越えて、今年初めて



慰霊の花火打ち上げにこぎつけたものです。「敵同士」とも言える両市が姉妹都市となり、アメリカでは「お祝いの花火」とされている慣行を克服して、犠牲者の眠る軍港内での開催が実現したと言います。並大抵のことではなかったと思います。花火には慰霊と復興だけでなく和解と赦しが新たに込められ、平和のかけはしとなったのです。

長岡市はホノルルに中学生の交流団も派遣、現地での交流を通じ、平和へのとりくみを次世代に引き継ぐことも重視しています。全国の自治体が長岡のように地方から平和のための国際交流を発信すれば、世界は大きく変えられると確信しました。人口27万の地方都市がこんなに頑張っているのに、わが横浜は？神奈川は？と聞かれると恥ずかしい限りです。

最後に、鈴木さんには、アオーレ長岡（市役所）、長岡戦災資料館なども案内していただき、紙面の都合で紹介できませんが、ほんとうにありがとうございました。

映画が好き

「この国の空」

会員 池田 資子



戦後70年、安倍政権が再び戦争をする国にしようとしている今年、戦争に関する映画が数多く上映されています。「この国の空」もその内の1本で、

1945年の春から夏、終戦までの半年間を描いています。

父を病気で亡くし、空襲に怯えながら母娘が暮らす杉並の住宅地が舞台です。娘の里子は19歳、町会の事務所で働いています。若い男性は出征し、子どもたちは疎開。ここに住んでいるのは女性と老人ばかり、ひっそりとしています。隣家には銀行支店長の市毛が住んでいます。市毛は兵役検査乙種のため出征を免れ、妻子が疎開し、ひとり暮らしです。防空壕を借りることをきっかけに、里子は市毛の身

の回りを世話するようになります。

戦争映画ですが、戦闘シーンや軍人、死体、焼け野原などは出てきません。空襲警報、B29の襲撃、それが去った後の夜の静けさ。ほっとひと息つく夜の時間、里子と市毛の関係が深まっていきます。死と隣り合わせの暮らしでも、食べること、眠ることは必要です。同様に男女の感情も存在して当然です。しかし、当たり前なのが出来ないのが戦争下でもあります。

里子は従姉の結婚式に出席し、「お嬢さんもそろそろですな」と言われます。自分も結婚して子どもを産むことができるのだろうか。何もないうまま、空襲で死ぬのではないかという思いが母娘ともにあります。市毛と里子は恋愛感情ではない何かだと思っています。異常な状況下での人の気持ちを考えることは残酷です。

戦争がなければ里子はどんな未来を描いたでしょうか。母と伯母、実の姉妹が食事のことで激しく罵ることもないでしょう。市毛も家族と幸せに暮らせたでしょう。人びとのつましい日常を描く事で、戦争について考えさせる映画です。ラストに流れる茨木のり子の詩「わたしが一番きれいだったとき」が、終戦後の里子の生活に思いを抱かせます。